

令和3年度 第2回

## 安城市博物館協議会

令和3年7月27日(火)

午後1時30分～

歴史博物館講座室

1 会長・副会長選出

2 協議事項

(1) 令和3年度開催済事業報告

(2) 令和3年度下半期事業(案)

3 その他

(1) 今後の日程

・合同研修

開催未定

・第3回

令和4年1月25日(火) 午後1時30分から

特別展「美vid Ukiyo-e!—美人画浮世絵展—」観覧

## 安城市博物館協議会委員

(任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日)

	氏名	選任区分	備考
委員	加藤 りせ子	社会教育	
委員	加藤 正彦	学校教育	
委員	荒井 信貴	学識経験者	
委員	高山 忠士	学識経験者	
委員	市川とし子	学識経験者	
委員	平岩 政志	公募委員	

## 安城市民憲章

わたくしたちは安城市民です。  
わたくしたちの愛する安城を、いっそう魅力にみちた  
生きがいのあるまちにするため、市民生活の心がまえとして、  
この憲章を定めます。

わたくしたちは、

- \*たがいに助け合い、住みよいまちをつくりましょう。
- \*きまりを守り、良い習慣を育てましょう。
- \*自然を愛し、きれいな水とみどりのまちをつくりましょう。
- \*教養を高め、若い力を育てましょう。
- \*健康で、明るく楽しい家庭をつくりましょう。

—昭和47年11月1日制定—

●安城市民憲章推進協議会●

## (1) 令和3年度開催済事業報告

### ア 利用状況

#### (ア) 月別入館者数 ※7月17日までの入館者数

月	展示観覧者						行事参加者	文献資料室 利用者	その他	延べ入館者 合計
	有料		無料		計					
	大人	計	大人	計	大人計	合計				
4	154	154	1,256	1,505	1,410	1,659	600	5	466	2,730
			249							
5	162	162	1,149	3,204	1,311	3,366	875	6	460	4,707
			2,055							
6	160	160	858	3,396	1,018	3,556	259	11	423	4,249
			2,538							
7	177	177	47	383	224	560	120	3	177	860
			336							
計	653	653	3,310	8,488	3,963	9,141	1,854	25	1,526	12,546
			5,178		5,178					

#### (イ) 利用形態別入館者数 ※7月17日までの入館者数

月	企画展 観覧者	常設展 観覧者	講演会 (シンポジウム 含む)	歴博講座	体験講座	連続講座	入門講座	歴博イベント	歴博演芸場	企画展 関連イベント	文献資料室	その他	延べ利用 者合計
4	1,396	263	0	0	47	10	0	175	0	368	5	466	2,730
5	2,232	1,134	0	0	310	18	30	4	0	513	6	460	4,707
6	2,072	1,484	23	27	18	19	28	0	0	144	11	423	4,249
7	97	463	38	0	20	10	14	14	0	24	3	177	860
計	5,797	3,344	61	27	395	57	72	193	0	1,049	25	1,526	12,546

#### その他内訳

部屋利用等	353人	多目的利用	1,173人
-------	------	-------	--------

#### <参考> 令和2年度との比較

行事名等	2年度	3年度	行事名等	2年度	3年度
展示観覧者	2,509	9,141	歴博イベント	0	193
講演会	0	61	歴博演芸場	0	0
歴博講座	0	27	展示関連イベント	657	1,049
体験講座	0	395	文献資料室	22	25
連続講座	0	57	その他	556	1,526
入門講座	0	72	合計	3,744	12,546

## イ 展示事業

(ア) 企画展「安城の今昔3 お米のモノがたりー知恵と工夫のむかしの道具」

a 会 期 令和3年4月3日(土)～6月27日(日) 実開館日75日

b 観覧者数 5,700人【目標7,500人】1日平均76人

c 期間中の催し物  
(ウ 教育普及活動を参照)

d 音声ガイドの利用状況 58人 (一般観覧者利用率1.6%)

e パンフレット 1,600部発行

f 展示について

(a) 展示点数 64点

(b) 本館に寄贈された民具のうち、機械化されるまで市域で使用された米にまつわる道具を紹介することができた。

(c) 岩槻信治記念館の資料を借用し、愛知県農事試験場における品種改良を紹介することができた。

g 観覧者について

(a) 土日は平均88人、平日は68人(見学学習除く23.5人)の観覧者であり、目標人数を達成することはできなかった。特に平日の観覧者が少ないのが問題であり、入館者を増やす取り組みを考えなければならぬと感じた。

(b) 市外からの来館が40%であるため、市外へも積極的に広報を行っていく必要があると感じた。

(c) 70代が一番多く約24%であり、子どもから20代までが非常に少ないため、若い世代にも魅力を感じてもらえる工夫が必要であると感じた。

(d) 記念講演会及び歴博講座には市外からも多くの聴講者が来館した。

(e) 見学学習では市内小学6年生と中学2年生の計17校の生徒が観覧した。

## ウ 教育普及活動

### (ア) 講演会・講座

#### a 展覧会記念講演会・シンポジウム

開催日	演題	講師	聴講者数
5月22日 → 6月26日 に延期	企画展記念講演会 「米づくりをめぐる民俗とその歴史」	久保禎子氏 (一宮市尾西歴史民俗資料館学 芸員)	23
7月17日	特別展記念講演会 「江戸の女性の日常・非日常」	山本野理子氏 (美術史家・日本風俗史学会理 事)	38

合計 61 人

#### b 歴博講座・入門講座

##### (a) 歴博講座

開催日	演題	講師	聴講者数
6月12日	江戸の完全リサイクル社会	日倉めぐみ (本館職員)	27

合計 27 人

##### (b) 入門講座

開催日	演題	講師	聴講者数
5月8日	古文書手ほどき	三島一信 (本館学芸員)	15
5月22日			15
5月12日			14
6月26日			14
7月10日			14
7月24日			未
8月14日			未
8月28日			未

合計 72 人

##### (c) 連続講座「村絵図で巡る安城今むかし」

開催日	演題	講師	聴講者数
4月24日	安城村1	高山忠士氏 (本館元館長)	10
5月15日	安城村2		9
5月29日	篠目村1		9
6月5日	篠目村2		9
6月19日	今村1		10
7月3日	今村2		10

合計 57 人

(イ) 展示関連イベント ※7月17日までの参加人数

開催日	タイトル	関連展示	実施日数	参加人数
4月3日～ 6月27日	お米のモノクイズ	企画展 「お米のモノがたり」	75日間	850
4月25日	東尾農業倉庫と農具実演見学会	同上	3日間	8
5月30日				11
6月20日				17
5月3日	お米づくりではたらくキカイ大集合!	同上	1日間	139
7月17日～ 9月12日	美人画の団扇を作ろう	特別展「美vid Ukiyo-e! 美人画浮世絵展」	51日間	※ 2
7月17日～ 9月12日	笠森お仙フォトスポット	同上	51日間	※ 22

合計 1,049 人

(ウ) 体験講座等

a 体験講座

開催日	講座名	講師	参加人数
4月29日～ 5月5日	「子どもの日」フォトスポット	指定管理者	347

合計 347 人

b 歴史文化事業 (指定管理自主事業)

開催日	演題	講師	参加人数
5月7日	姫きものを作ろう	榊原清美氏 (古裂美術工房)	10
5月21日			(※10)
6月4日			9
6月18日			9
7月2日			10
7月16日			10

※5月21日は市民ギャラリーで開催

合計 48 人

(エ) 歴博イベント

開催日	タイトル	参加数
4月1日～4月2日	歴史博物館クイズラリー	7
4月3日	安城コスプレオールスターズ with 安城歴史博物館	14
4月10日	懐かしの“車”写生大会&写真撮影会	154
4月29日～5月5日	SNS フォローでお菓子プレゼント	4
7月1日～7月16日	歴史博物館クイズラリー	14

合計 193 人

※歴史博物館クイズラリーは博物館の展示入替え時期や、学校の長期休暇にに来館されたお子様が、博物館ほか3施設を巡って楽しめるように企画したもの。

(オ) 見学学習

ア 市内小学6年生(企画・特別展、常設展、埋文セ)見学

月	日	曜	学 校 名	学 年	人 数	月	日	曜	学 校 名	学 年	人 数
5	13	木	桜井小	6	151	6	23	木	三安小	6	89
5	21	木	安北小	6	124	6	25	金	安南小	6	95
5	28	金	祥南小	6	59	6	30	水	作野小	6	103
6	4	金	高棚小	6	45	7	2	金	明和小	6	60
6	8	火	里町小	6	92	7	13	火	丈山小	6	100
6	4	水	志貴小	6	32						
6	11	金	桜林小	6	109						
6	16	水	二本木小	6	139						
6	17	木	安東小	6	82						
6	18	金	梨里小	6	80						
6	22	火	安西小	6	104						
児童・生徒数 計 1,464人											

イ 市内中学生(企画・特別展、常設展、埋文セ)見学

月	日	曜	学 校 名	学 年	人 数
5	20	木	安祥中	2	187
5	25	火	安南中	2	270
6	10	木	桜井中	2	241
中学校生徒数 計					698人

ウ 市外小中学校(児童・生徒)(企画・特別展、常設展、埋文セ)見学

月	日	曜	学 校 名	学 年	人 数
7	15	木	新川小	6	70
7	16	金	新川小	6	70
市外小中学校生徒数 計					140人

エ 地域連携活動

(ア) 博物館ボランティア

a 常設展示ガイド 12人

※新型コロナウイルス感染症により、5月22日(土)～中止

b 見学学習対応

※新型コロナウイルス感染症により、5月～7月は中止

オ その他

(ア) 無料開館

5月16日(日)、国際博物館の日(5月18日)にちなみ、常設展示を観覧無料にする。  
観覧者：一般42人、小中学生17人

## (2) 令和3年度下半期事業（案）

ア 展示事業 ※すべて主催は安城市歴史博物館、会場は同館企画展示室

(ア) 特別展「加賀本多家―その歴史と至宝―」

a 開催期間 令和3年10月2日（土）～11月14日（日）

休館日：毎週月曜日、実開館日数：32日

b 趣 旨

加賀本多博物館は、安城市にゆかりのある本多正信の子政重を初代とする加賀本多家の伝来品を収蔵・展示している機関である。政重は父正信の次男として三河で生まれ、家康家臣の倉橋長右衛門の養子となり、徳川秀忠の小姓となるが、殺傷事件で出奔し、豊臣大名の宇喜多秀家に仕えて、関ヶ原の戦いでは西軍として戦っている。戦後は広島福島の福島正則、加賀の前田利長、上杉景勝と大名家を渡り歩き、再び加賀の前田に戻った。上杉景勝に仕えていた時には腹心直江兼続の養子となって直江家を継いだ。

加賀藩では、中級大名クラスの5万石の俸禄で仕え、草創期の藩の難局を藩主利長・利常とともに乗り越えた。藩では年寄級の「八家」の筆頭となった。加賀藩の存続には、幕閣の中心的存在であった父正信の存在が大きく、太いパイプを持つ政重の藩における功績は大きかった。父正信・兄正純が幕府から去った後も、藤堂高虎や、2代政長は保科正之などとの親交も深かった。父正信と同じく、三河武士の中では特異で波乱万丈な政重の人生であった。加賀本多博物館には政重の品や2代政長の文化に関わる資料の他、馬具・矢の根・刀剣付属品などの武具類、調度品が豊富に収蔵されている。これらの品は主に石川県内で展示されている。県外での展示は非常に少なく、さらに一堂に集めた展示は今回が初めての試みとなる。本展示では政重所用の武具や古文書、加賀藩での役割がわかる史料、武具や主君前田家の姫の輿入れ品など、多彩な収蔵品を展示する。

c 観 覧 料 一般500円（中学生以下無料）

d 展示構成（出品予定件数 111件）

- (1) 本多正信からの系譜
- (2) 加賀本多家初代 本多政重
- (3) 加賀藩における加賀本多家
- (4) 加賀本多家の武装
- (5) 加賀百万石文化と加賀本多家

e 出版物 ポスター、チラシ、観覧券、図録

f 関連行事 \*指定管理者事業を除く

(a) 特別展記念講演会

①「加賀本多博物館所蔵品の魅力」（仮称）

講師：本多政光氏（加賀本多博物館館長）

日時：10月2日（土）午後2時から

②「加賀藩における加賀本多家の役割」（仮称）

講師：本多俊彦氏（金沢学院大学准教授）

日時：10月16日（土）午後2時から

(b) 歴博講座 「本多正信と政重父子」（仮称）

講師：三島一信（本館学芸員）

日時：11月6日（土）午後2時から



(イ) 企画展「THE 三河 MANZAI」

a 開催期間 令和3年12月4日(土)～令和4年1月16日(日)

休館日：毎週月曜日・年末年始、実開催日数：32日

b 趣 旨

平成3年(1990)2月の開館以来、平成7年(1995)に国指定無形民俗文化財となった「三河万歳」に関する資料を収集・保存してきた。過去にも平成10年の特別展「三河万歳～伝承された舞の形～」、平成20年の特別展「江戸っ子が見た三河万歳」等でその一部を展示してきたが、今回、はじめて三河万歳に関連する所蔵コレクションをほぼすべて網羅したかたちで公開する。正月行事として描かれ記された、めでたい三河万歳をご覧いただき、コロナ渦の閉塞感を払拭したい。

c 観 覧 料 無料

d 展示構成

第1章 「三河万歳」とは何か

第2章 さまざまな万歳

第3章 万歳の描かれるころ

第4章 万歳尽くし

第5章 三河万歳の転機

第6章 国無形民俗文化財の指定と現在

e 出版物 ポスター、チラシ、観覧券、パンフレット(A4 8ページ 1,600部)

f 関連行事

(a) 展示関連イベント(安城市内の三河万歳、新春初舞)

(b) 歴博講座 「三河万歳について」(仮題)

講師：西島庸介(安城市歴史博物館学芸員)

日時：12月26日(土)午後2時から

(ウ) 特別展「女子のたしなみ（仮題）」

a 開催期間 令和4年2月5日（土）から3月20日（日） 実開館日 38日  
休館日：毎週月曜日

b 趣 旨

「たしなみ」とは趣味・芸事の心得のみならず日々のところがけも含まれ、家庭や教育を通して伝達されてきた。江戸から明治に時代が移ると、女性の生活は大きく変化していきます。髪型や化粧法の変化など身だしなみの変化だけでなく、国の求めに応じて女性は良妻賢母となることを求められ、明治30年代以降、女礼式について記した書物や刷物が発行される。明治32年に高等女学校令が公布されると、良妻賢母教育を行うための女学校が整備されていき安城市域にも明治45年（1912）に安城裁縫女学校、大正10年（1921）に安城高等女学校が設立された。

都市部では、家計管理も含めた家事全般を取り仕切る「主婦」や、新しい職業を持つ「職業婦人」が誕生する。繊維産業が盛んであった安城市域も県外から多数の女工が転入し、当該時期の職業別人口は女性が男性よりも多く、市域は女性のまちとなった。

明治末から大正期にかけては、女性向けの雑誌が多数刊行され、女性は婦人雑誌の記事を参考に暮らしを豊かにするための工夫を行った。

今回の特別展では、錦絵や絵葉書、生活道具などから近世から近代にかけて目まぐるしく移り変わる時代の中での女性の「たしなみ」や生活の変化について紹介する。

c 観 覧 料 400円 中学生以下無料

d 展示構成

第1章 近世女性のたしなみ

第2章 近代女性のたしなみ－文明開化と暮らしの変化－

第3章 女学生のたしなみ－良妻賢母教育と女学校－

第4章 主婦のたしなみ

第5章 働く女子のたしなみ－女性のまち安城－

第6章 三種の神器と戦後の女性の暮らし

e 出 版 物 ポスター、チラシ、観覧券、図録

f 関連行事

(a) 特別展記念講座

①「近世女性の職分－規範とその生活－」

講師：吉田ゆり子氏（東京外国語大学教授）

日時：2月20日（日）午後2時から

②「女学生の文化とたしなみ」（仮題）

講師：稲垣恭子氏（京都大学理事・副学長）

日時：2月26日（土）午後2時から

(b) 歴博講座 「女子のつとめとたしなみ」（仮題）

講師：野上真由美（安城市歴史博物館学芸員）

日時：令和3年3月5日（土）午後2時から